



第62期 環境経営レポート

(活動期間：2018年10月1日～2019年9月30日)



山陽製紙株式会社

発行：2019年11月12日

改定：2020年11月17日



目次

P1	ご挨拶
P2	経営理念
P3	環境経営方針
P4	会社概要
P5	組織図
P6	各部門での取り組み内容
P7	環境負荷物質排出量の推移
P8	環境目標及びその実績（全社）
P9～10	環境活動の取り組み計画と評価（工場、事務・営業部門）
P11	環境関連法規制等の順守状況
P12～19	環境活動の紹介①～⑦
P20	クレープ紙製品のご紹介
P21～23	アップサイクルサービスと商品のご紹介
P25	工場見学&紙抄きイベント
P26	総括～代表者による全体評価と見直しの結果～



ご挨拶

P1

『「紙創り」を通してお客様と喜びを共有し、環境に配慮した循環型社会に貢献すること』を基本理念として、日々精進しております。

どうしたら自然と共生できるかということを常に考え、そのために自然を守る活動や地球環境負荷低減活動に、全社員で積極的に取り組む会社でありたいと思います。

エコアクション 21 の活動を通して、より一層の理念の浸透を目指します。

山陽製紙株式会社 代表取締役 原田 六次郎



経営理念

P2

『私たちは紙創りを通してお客様と喜びを共有し、
環境に配慮した循環型社会に貢献します。』

- ・私たちは希少価値のある紙をお客様と共に創ります
- ・私たちはお客様と共に成長発展することを喜びとします
- ・私たちは資源として使った地球の財産を守り、再生し、循環型社会に貢献します。

環境経営方針

山陽製紙は、地球環境を守ることが全人類の最重要課題の一つであることを認識し、どうしたら自然と共生できるかということを中心に考え、環境問題に全社員で積極的に取り組みます。



環境経営方針

P3

1. 具体的に次のことに取り組みます。

- ①電力・燃料の消費に伴う**二酸化炭素排出量**の削減
- ②使用原材料の省資源、廃棄物の**3R**（減量、再使用、再生利用）の推進
- ③水資源の**節水**
- ④循環資源を活かし、環境に配慮した製品の**開発・販売促進**
- ⑤**グリーン購入**（環境に配慮した資材の購入）の推進
- ⑥化学物質の**適正管理**
- ⑦**環境人財**の育成

これらについて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2. **環境関連法規制**や当社が約束したことを順守します。

3. 環境への取り組みを**環境経営レポート**として取りまとめ公表します。

制定日：2007年11月13日 / 改訂日：2018年10月30日

原田 六次郎



会社概要

P4

代表者	代表取締役 原田六次郎
社員数	48名
創業	昭和3年3月
設立	昭和32年12月
本社工場	大阪府泉南市男里6-4-25
東京営業所	東京都千代田区岩本町2-17-2 秋葉原サウスイーストビルディング8F
事業内容	紙類の企画、製造・販売、並びに紙再生サービス
営業目的	各種クレープ紙の製造及び販売 自社ブランド商品（SUMIDECO、crep、PELP!）の企画・販売 電子部品用層間紙の製造および関連資材の販売 その他オーダーメイド再生紙の製造 他
事業規模	製品売上高 / 10億7,000万円 主要製品生産量 / 3,645 t / 年
主要施設	土地 / 10,400 m ² 、建物 7,100 m ² 設備 / 抄紙機2台、スリッター設備一式、フレキソ印刷機、平判断裁機、 シートマシン一式、活性炭ろ過方式排水処理設備、常設ギャラリー 他
認証取得	ISO9001（2001年～）、エコアクション21（2008年～）



エコアクション21
認証番号 0002824

組織図

2019年10月現在

代表者
代表取締役 原田六次郎

- ・環境経営に関する統括責任
- ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知
- ・代表者による全体の評価と見直しを実施



環境管理責任者
取締役工場長 中野晴夫

- ・環境経営システムの構築、実施、管理
- ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認



環境事務局
事務局長 橋本正樹

- ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局
- ・環境目標・環境活動計画書原案の作成



ゼロエミ委員会
(EA21推進委員会兼務)

- ・毎月の活動報告／改善活動共有／環境勉強会
- ・3ヶ月毎の評価（コメント）・指示・記録



各部署
事務所・工場・東京

- ・自部門における環境経営システムの実施
- ・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚
- ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加





事務所 (10名)

- ・総務・お客様係
- ・営業・企画開発

工場 (34名)

- ・製造課・加工課
- ・工務室・研究開発室

東京営業所 (3名)

- ・営業
- ・企画開発

各部門での取り組み内容

CO₂排出量削減

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・電力の削減
(生産量当たり使用量の削減) ・ボイラー燃料削減 ・リフト燃料削減 | <ul style="list-style-type: none"> ・電力の削減
(電気使用量の削減) ・自動車燃料削減 |
|--|---|

工場部門

事務・営業部門

水資源の節水

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・放流水の削減
(生産量当たり使用量の削減) ・水道水削減 | <ul style="list-style-type: none"> ・水道水の削減 |
|--|---|

工場部門

事務・営業部門

廃棄物削減

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物削減 ・産業廃棄物削減 | <ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物削減 |
|--|--|

工場部門

事務・営業部門

グリーン関係

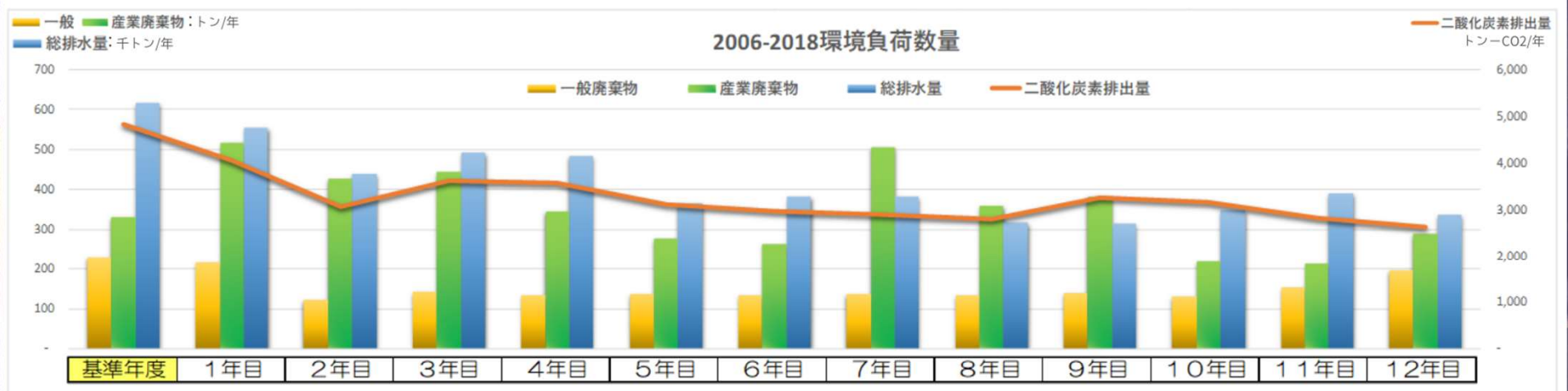
- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・グリーン調達 ・工場立地法対策 ・缶 / ペットボトル分別 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した製品の販売促進 ・グリーン購入 |
|--|--|

工場部門

事務・営業部門

主な環境負荷の実績と推移

項目	単位	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
		第50期 基準年度	第51期 1年目	第52期 2年目	第53期 3年目	第54期 4年目	第55期 5年目	第56期 6年目	第57期 7年目	第58期 8年目	第59期 9年目	第60期 10年目	第61期 11年目	第62期 12年目
二酸化炭素排出量	トン-CO2/年	4,829	4,056	3,055	3,610	3,566	3,121	2,966	2,895	2,785	3,262	3,150	2,813	2,630
一般廃棄物排出量	トン/年	231	216	123	143	134	136	134	136	133	140	132	153	197
産業廃棄物排出量	トン/年	333	518	427	445	346	277	264	506	360	383	218	212	289
総排水量 (地下水+水道)	千トン/年	617	555	438	493	484	364	381	383	317	316	349	391	337



※61期での再生可能エネルギー (FIT) ヘシフトの為、工場側は係数が
 0.531 ⇒ 0.234 (kg-CO2/kWh)へ変更されています。
 61期 (2017年度) も変更しております。
 事務所使用電気は関西電力様 0.352 (kg-CO2/kWh)です。

環境目標及びその実績 (全社)

・63期目標数値(2019)は62期実績より生産数量同等と想定算出。

※目標数値は生産量の変動など期中で変更の可能性あり。

61期からCO2の係数が変更。62期中の目標値は以前の係数での算出の為、次年度より数値が変更。

・中期計画内新設備に関するコスト削減目標と稼働率での改善策等も同時進行でCO2削減を目指す。

・環境配慮製品：
PELP!
SUMIDECO
オーダーメイド

・電力排出係数
事務所：0.352
工場：0.234
(k-CO2/kWh)

・63期はより多くの項目での達成が増えるように常時ゼロエミ委員会で管理と対策の強化していきたいと思う。
ゼロエミのコンポストや4Rに関しても対策しつつエコな活動に繋げたい。

年度		下段：対基準年度削減率								
		2006年 基準年度	2018年 (目標)	(実績)	2019年 (目標)	2020年 (目標)				
生産量	評価	kg	4,919,457							
二酸化炭素排出量削減	電力削減(工場)	FIT使用の為、Co2排出量は目標達成。課題は一人一人の電力への使用量削減への意識。コスト面もきめて。	○	排出量 (kg-CO2)	1,752,921	1,700,000	856,421	830,000	800,000	
	電力の生産高当りの削減 ※1	目標未達成。生産数量も毎年ほぼ同じ量なので、電気使用が多いという認識で効率化と作業改善を促す。	×	(kWh/Kg)	0.943	0.830	1.057	0.830	0.820	
	リフト燃料の削減	目標達成。軽油の使用量は平均400ℓ/月。電気リフトと合わせ効率化を更に目指す。	○	(kg-CO2)	25,384	12,997	12,531	12,489	10,000	
	ガソリン(軽トラ用)	(手巻作業用軽トラ) 効率良い運転を。	○	(kg-CO2)		-48.8	-50.6	-50.8	-60.6	
	ポイラ燃料の削減	目標未達成。トラブルによる蒸気漏れが多かった。日頃から点検・メンテが大事になってくる。	×	(kg-CO2)	1,780,518	1,609,586	1,754,921	1,700,000	1,650,000	
	電力削減(本社事務所)	目標達成。省エネの活動は意識が上がっているみたいで、無駄な使用が無かった結果だと思う。	○	(kg-CO2)	10,439	7,996	5,144	4,186	3,977	
	自動車燃料の削減	目標達成。営業活動や出張時の公共交通機関使用+移動時間の有効性を形にしたい。	○	(kg-CO2)	15,014	4,519	1,021	4,264	3,814	
	二酸化炭素排出量合計		(kg-CO2)	3,584,276	3,335,098	2,630,406	2,550,939	2,467,791		
	廃棄物排出量削減	一般廃棄物の削減(工場)	目標未達成。ゼロエミ委員会による活動や改善もしたが廃棄物量削減の活動を強化したい。	×	(kg/年)	231,150	138,921	196,400	168,740	159,262
		産業廃棄物の削減(工場)	目標達成。原料の流出を極力無くした結果、目標値をクリアした。63期も原料流出は極力減らしたい。	○	(kg/年)	307,350	299,974	289,000	285,836	276,615
一般廃棄物の削減(本社事務所)		目標達成。3Sを含めた改善活動や無駄な購買も無く、来期も細分化で努めたい。	○	(kg/年)	392.4	339.8	165	158.9	139.3	
廃棄物排出量合計		(kg/年)	538,500	438,895	485,400	454,576	435,877			
節水	放流水の削減 ※2(工場)	目標未達成。生産数量に左右されるが、改善策を見出して活動をしていきたい。	×	生産高当削減 (ml/kg)	0.125	0.085	0.092	0.085	0.085	
		目標達成。排水量は年間を通して削減出来た。今後は排水量削減の改善策を努めていきたい。	○	(ml/年)	616,221	381,732	334,257	326,597	318,586	
	水道水の削減(工場)	目標未達成。ポイラー機器故障などが原因になっている可能性を保守方法も見直し、改善したい。	×	(ml/年)	3,267	2,200	2,347	2,200	2,200	
	水道水の削減(本社事務所)	目標未達成。ギャラリー使用量が増加。顧客来社時の対応での改善策などを検討したい。	×	(ml/年)	1,104	120	142	120	120	
	総排水量合計		(ml/年)	619,488	383,932	336,746	328,797	320,786		
環境に配慮した製品の販売促進	目標達成。環境配慮を意識した製品を望む顧客も増加で展示会からの引き合いも多くなってきている。	○	売上高 (千円)	4,247,309	35,000,000	65,573,000	70,000,000	80,000,000		
62期生産数量(kg)					3635154kg					

環境活動の取り組み (工場)

- ・目標に対しての数値の意識が上がってはいるが、改善は少なかったため未達成が増えた。
- ・コスト削減面ではなかなか現状厳しい箇所もあり、次期活動への反省と改善にしたい。
- ・生産数量が下がり原単位が未達成になってしまう項目もあり、次期活動として数値の共有もしていきたいと思う。
- ・ゼロエミ委員会での対応は初めての活動になり、今までより深く追求できず反省であるが、EA21推進委員会単独ではなく、ゼロエミッションも掲げての年間活動になったと思う。

取り組み計画	達成状況		単位(%) 基準年度比	評価(結果と今後の方向)
ボイラ燃料の削減	基準年度	1,780,518	kg-CO2	目標未達成
ガス使用量のデータ収集	目標	1,609,586	-9.6	62期はトラブルによる蒸気漏れが多かった。日頃からの点検・メンテが大事になってくる。63期は機械停止日を利用し週単位でのメンテナンスが必要と思います。
蒸気漏れの保守点検・保温材装着	実績	1,754,921	-1.4	
効率の良い抄紙機運転				
「電力」の生産高当たりの使用量削減	基準年度	1,752,921	kg-CO2	目標未達成
歩留向上 製造損紙率低減 加工ミス削減	目標	1,700,000	-3.0	FIT電気の係数でCOの排出量は達成しているが、原単位での削減は届かなかった。センサーライトなども今後必要になってくると思います。社員一人一人が電力を使い過ぎているという意識を持つことが63期の重要課題と思います。
電灯の数を減らす 不要電灯消灯	実績	856,420.6	-51.1	
蛍光灯の変更 明かり窓の設置	基準年度	0.943	kWh/kg	
冷暖房の控えめな使用(冷28℃暖20℃)	目標	0.830	-12.0	
	実績	1.057	12.1	
排水放流の生産高当たりの使用量削減	基準年度	616,221	m ³	目標未達成
歩留向上 加工ミスの削減	目標	381,732	-38.1	電気と同じく排水量は年間を通して目標は達成。原単位は未達。今後は排水量の削減できる案件や改善策を見出して活動をしていきたい。
各ポンプのバルブ操作による削減	実績	334,257	-45.8	
雨水の再利用使用水量削減の改善提案募集	基準年度	0.125	m ³ /kg/年	
	目標	0.085	-32.0	
	実績	0.092	-26.4	
リフト燃料の削減	基準年度	24,513	kg-CO2	目標達成
電気リフトへの変更	目標	12,997	-48.8	目標達成!あと僅か未達になるぐらい、ギリギリな活動であった。来期も目標により一層細かく管理し、無駄を無くしたいと思います。
急加速・急発進の防止	実績	12,531	-50.6	
倉庫レイアウトの見直し・変更				
通路の確保				
一般廃棄物の削減	基準年度	231,150	kg	目標未達成
弁当の割り箸をなくす	目標	138,921	-39.9	目標値をクリアする事ができなかった。木パレットを再利用可能なフラッシュパレットに変更やポリラミ損紙の再利用など、63期目標達成に向けて活動できたところは良かった。
工程ロスの削減(歩留向上)	実績	196,400	-15.0	
ポリラミ損紙自方の現状把握				
リサイクル先の開拓				
産業廃棄物の削減	基準年度	307,350	kg	目標達成
原料流出の防止	目標	299,974	-2.4	目標達成は果たしたが、それでもゼロエミッションには程遠いので、尽力を尽くしていきたい。原料の流出を極力無くした結果、目標値をクリアした。63期も原料流出は極力減らしたい。
各ポンプ類の点検	実績	289,000	-6.0	
分別回収 購入原料の見直し				
節水(水道水)	基準年度	3,267	m ³	目標未達成
節水の呼びかけ	目標	2,200	-32.7	目標達成できなかった。詳細な原因は不明だが、ボイラー機器の故障などもあったので、それが原因になっている可能性もある。保守の方法も見直す必要があると思われる。
	実績	2,347	-28.2	
雨水の利用				

環境活動の取り組み (事務所・営業)

- ・今期、最も大きく削減出来たのが自動車のガソリン使用量である。意識改革というよりは、営業活動などを公共交通機関にし、移動中データのやりとりから、まとめ等の時間に割り当てたのが1番の改善策だと思う。
- ・SDGsの件もあり、ゴミや再生紙に回せる廃棄物などをしっかり行動に移せたのも素晴らしく思う。まだまだ細かい分別は出来ていないが女性が多いので、仕事と活動を楽しみながら実施して頂けたのではないだろうか。
- ・工場と同じく電気に関しては達成。しかし使用量は少々上がっている点を次期は改善していきたい。

取り組み計画	達成状況		単位(%) 基準年度比	評価(結果と今後の方向)
電力の削減	基準年度	10,439	kg-CO2	目標達成
不在時消灯の徹底	目標	7,996	-23.4	省エネの活動は意識が上がっているみたいで、無駄な使用が無かった結果だと思う。来期の目標にもよるが、同じ気持ちで頑張りたい。
冷暖房の控えめな使用(冷28℃、暖20℃) 不在時のパソコン電源オフ	実績	5,143.8	-50.7	
一般廃棄物の削減	基準年度	392.4	kg-CO2	目標達成
ロス荷札ラベルの有効利用	目標	339.8	-13.4	目標値達成。3Sも含め改善活動はしているが、あまり無駄な物が購買されていない結果でもある。各営業の試料などはどうなっているのかわからないが、工場で処理されているのであれば事務所は来期も細分化で努めたい。
缶・ビン・PETボトルの分別回収 事務所一般ゴミ分別回収の徹底	実績	165	-58.0	
水道水の削減	基準年度	1,104	m ³	目標未達成
節水表示による意識向上	目標	120	-89.1	目標未達成。ギャラリー使用量が増えているのが原因と思われる。次期では目標値の見直しも視野に入れて、もう一度計画を見直す必要がある。
	実績	142	-87.1	
環境配慮製品の販売促進	基準年度	4,247	千円	目標達成
梅炭クレープ紙の拡販	目標	35,000,000	824%	今期は問題なく終了した。今後も引き続き環境配慮を意識して拡販していきたい。お客様も環境に意識した製品を望んでおられるので展示会からの引き合いも多くなってきている。
循環型製紙の企画提案と営業強化	実績	65,573,000	1544%	
自動車燃料の削減	基準年度	15,014	kg-CO2	目標達成
アイドリングストップ	目標	4,519	-69.9	意識向上が目標達成に繋がった。意識はかなり向上しています。営業活動や出張が増えればそれなりに増えてきますが、公共交通機関使用+移動時間の有効性を形にしたい。
急加速、急停止の防止 月当たりの走行距離調査	実績	1,021	-93.2	



環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される施設等
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物
騒音・振動規制法	抄紙機、印刷機、空気圧縮機、スリッター
水質汚濁防止法・瀬戸内海環境保全特別措置	抄紙機、排水処理設備
公害防止組織法	排水処理設備
大阪府生活環境条例（大阪府地下水汲み上げ制限）	製紙用水
消防法	原料置き場、少量危険物貯蔵所
フロン排出抑制法	スポットクーラー、空調機
毒物劇物取締法	抄紙用薬品類

順守評価の結果、順守されています。なお、関係当局より、違反等の指摘は、過去3年間ありません。

工場立地法の届出を随時予定しています。（緑化面積の問題）



環境活動の紹介① —eco検定—

自然の恵みを享受して成り立つ
製紙業だからこそ、環境問題が
最重要課題の一つであることを
認識し、エコな紙創りを目指す、
エコピープル（※）たち。
今年は3名増えました。

エコ検定合格者：39名
(2019年10月現在)



※エコ検定とは

正式には、『環境社会検定試験』といい、東京商工会議所が開催しています。

2006年10月に第一回の試験が行われ、以降毎年7月と12月に実施されています。

試験の点数は100点満点で、70点以上取れば合格で、合格した人は「エコピープル」として認定されます。



環境活動の紹介② —CSR検定—

循環型社会への貢献を掲げる
「経営理念」の実現がCSRの取
り組みにつながると考え、より
理解を深めるため、全員合格を
目指します。

今年は0名増えました。

CSR 検定合格者：24名

2019年10月現在



※CSR 検定（3級）とは

企業や組織がサステナブル（持続可能）になるために、CSRの基本知識を身に付け、CSR活動が企業価値を高め、NPOとの協働の重要性、企業と社会が連携して社会的課題を解決する意味など、「CSRリテラシーの基本」を身につけることを目的としています。毎年4月と10月に試験が行われています。





環境活動の紹介③ ーアドプトリバー男里川ー

紙を創るのにかかせない、
伏流水の供給源である男里川
(おのさとがわ)。毎月有志で
清掃しています。ゴミを拾っ
たり、草を刈り取ったり。
魚や鳥の住みやすい環境をつ
くるために、地域の皆さまと
協力して、毎月第二日曜日、
朝8時から1時間ほど、活動
しています。



夏も！



冬も！



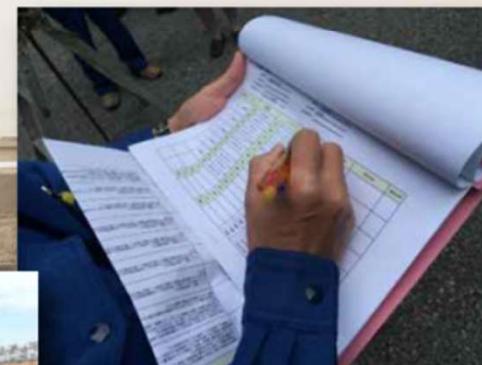
海も！



環境活動の紹介④ —BCP訓練—

-もし未曾有の災害が起こったら-
-昨年から導入しているBCP訓練
では災害(津波・地震)が起きた
際の、その後の経営も含めた対策
と避難を实际出来るかどうかの訓
練を実施しました。

初期初動では改めて必要なモノや
道具、避難経路に関して協議をし、
年に1回でも継続した訓練を実施
していく事決めました。



避難場所、
災害備品など
しっかり確認!





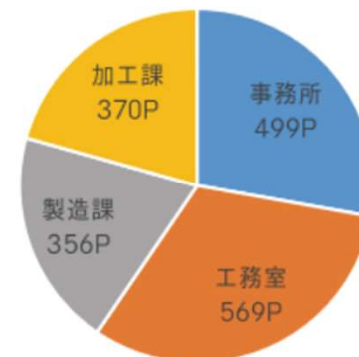
環境活動の紹介⑤

ーリサイクル活動（EA21,ゼロエミッション）ー

独自の
エコポイント制
で活発化！

エコポイント制	ポイント	利用目的
アルミ缶回収	1缶=1ポイント	現金化による、社内緑化活動にて還元
スチール缶回収	1缶=1ポイント	
ペットボトル回収		
ペットボトルキャップ回収	1個=0.5ポイント	エコキャップ推進協会加盟（推奨）のリサイクル業者への提供
ガラス瓶などの廃棄	1缶=-1.5ポイント	廃棄物増加の原因なので、推奨しません。
段ボール回収	1kg=5ポイント	社内リサイクル資源として活用 (原料パルパー横のパレティーナに計量し、分別の事。)
新聞紙回収	1kg=5ポイント	
白紙回収	1kg=5ポイント	
その他雑紙回収	1kg=1ポイント	
書き損じハガキ回収	1枚=10ポイント	※書き損じハガキは工務室「専用回収箱」に入れて下さい。
古書回収	1kg=5ポイント	社内ウエス、社内バザー(交換)、海外提供

各部署一人当たりの
エコポイント平均値



紙資源の回収は、社内に出るもの、社員宅のものも含め、随時分別回収を行い、製品原料として使用中。(ダンボール・雑誌・新聞紙・コピー用紙など)



アルミ・スチール・ペットボトル・キャップに分別し、資源回収を行っています。キャップは3年前から回収を始め、現段階で、19,393個リサイクル業者に提供。



環境活動の紹介⑥ —3S活動—

3S活動とは、「整理・整頓・清掃」を仕事の一環として、生産性・効率化・安全性を考え、**会社全体の環境改善に取り組む活動**です。

- 汚れる頻度の多い場所の仕組みを変えて、汚れない環境にする
- 工程の多い仕事の流れの短縮化
- 危険個所の修繕や補強・看板設置などにより安全な環境を確保する活動です。

毎年関西では「3Sサミット」というイベントが開催され、弊社は毎年参加しています。





環境活動の紹介⑦ ードリカムスクールー

「ドリカムスクール」は、企業が自社の仕事や仕事にかける思いについて出前授業を行い、学生がその企業から与えられるミッションの解決に向け、グループワークで取り組むものです。地元への地域貢献と若手社員の理念の浸透にも役立つと考え、2016年に初めて実施しました。今年で4年目になります。今までより少ない3名という人数で頑張ります。このドリカムに参加した子供さん達は
今回で200名を超えました。

小学生に工場を案内する
若手社員



仕事への思いや夢を
語る若手社員



小学生に自社の紙の特徴
を伝える若手社員



今期の目標を掲げる
メンバー5名（三期生）





クレープ紙製品のご紹介

■ 製袋用

創業以来80年、セメント袋・米袋の口縫い部分の紙として使用され、国内トップシェア

■ 包装用

弊社独自技術（糸入り一次クレープ紙）の開発により、ステンレス／鉄／電線の梱包・防錆資材として使用されている

■ 層間紙

電子部品（リードフレーム、コネクター）関連の合紙として一般クラフト、中性クラフト無塵紙などが活躍

■ ラッピング

花用（鉢・花束）ラッピングペーパーとして販売メーカーのオリジナル商品・手提げバッグなどを製造



クレープ紙とは、紙に刃をあてることで、シワを付け、強度と伸縮性を付加したものです。



アップサイクルサービスのご紹介 —PELP! (ペルプ) —

ペーパー ヘルプ プロジェクト
PEPAR HELP PROJECT

捨てず、燃やさず、めぐる紙

紙を捨てることは簡単
その代わり、ごみは増える
紙を燃やすことは簡単
その代わり、資源は消える
あなたにとってはいらない紙
地球にとっては貴重な資源

少なくとも、多くても
再生紙創りを専門とする私たちが
不用なコピー用紙を回収し
地球の資源を救います

紙は生まれ変わり
あなたのもとにまた還る

捨てないで、燃やさないで
ふたたび、みたび、めぐる紙

PELP! は、コピー用紙を資源に変える アップサイクルサービスです。

2018年5月に「KAMIDECO (カミデコ)」から「PELP! (ペルプ)」に生まれ変わりました。

不要なコピー用紙を専用回収袋「PELP!BAG」に入れ、山陽製紙に送ることで、今まで捨てられていた紙が再生紙として、生まれ変わります (PELP!PAPER)。その100%再生紙で思いの詰まったより価値のある「PELP!PRODUCT」が作られます。

資源としてまだ使える紙が捨てられているのを何とかしたいという思いから生まれた「PELP!」。送った紙の総量とCO2削減量などの環境貢献指数が一目で分かるシステム (KAMITORE) の閲覧や、環境活動にも貢献できます (1%FTP)。自社のCSRやSDGsにも活用できる、手軽なアップサイクルサービスです。

このサービスを広げるため、全社営業で取り組んでいきます。



「1% FOR THE PLANET」は、自然環境保護の必要性を理解する企業の同盟です。「PELP!」を通じて生じた売上の1%は自然保護活動を行う団体に寄付されます。



世界に先駆けて再生紙のトレーサビリティを可能にしました。どの企業で分別された紙が、どんな紙に生まれ変わったかなど、再生状況の全てが追跡可能に。再生重量総数を環境貢献指数に換算表示。



アップサイクルブランドのご紹介 —SUMIDECO（スミデコ）—



SUMIDECO

日本古来の健康食品として名をはせている『梅』。我が社はそのブランドである「南高梅」の産地のほど近くにあります。美味しい「南高梅」は、世界中の人に愛されていますが、一方で、加工業者から出る梅の種が産業廃棄物としてその処分が問題となっていました。そこでその種を「炭」にして、用途を広げるために紙の中に抄きこめないと依頼がありました。弊社は独自の製法で、梅の種の「炭」を紙の中に抄き込み、「炭」の機能を持った紙に生まれ変わらせました（sumideco paper）。その再生紙のブランドが「SUMIDECO（スミデコ）」です。



炭化させた種などを紙に抄き込み、
炭が持つ優れた機能を生かした再生紙

「不用になったモノを捨てずに再活用し、よりよいものにする（アップサイクル）」というコンセプトを基に独自技術で産業廃棄物を炭化し配合した「炭再生クレープ紙：sumideco paper」。炭の機能性を活かした（※）、靴の消臭シート「エコクック」を販促用として展開したり、独特の風合いを活かして、「SUMIDECO」として、ブックカバーなどの製品も手がけています。「古紙・炭・水」だけで作られたエコロジーなプロダクトです。

sumi eco KuKKu



SUMIDECO
product

※炭の持つ優れた機能

- 脱臭・消臭効果
- 防カビ・抗菌効果
- 除湿・調湿効果
- VOC・ホルモアルデヒド吸着効果
（※エチレングス吸着効果による）





アップサイクルブランドのご紹介 —crep (クレプ)—



工業用クレープ紙の特徴を活かした、
「自然を楽しむ」アップサイクルブランド

“自然をもっと楽しもう”をコンセプトに生まれたの紙のプロダクトブランドです。紙製レジャーシート「ピクニックラグ」などの crep (クレプ) の商品は、電線の包装等に使用される再生紙「工業用クレープ紙」の高い強度を活かしており、紙にも関わらず繰り返し使えます。紙ならではの素朴な風合いと親しみやすいデザインが、ピクニックなど自然を楽しむアクティビティをやさしく彩ります。

crep は、使い捨てではない新しい紙の可能性を広げながら、人と自然のより良い関係について考え続けていきます。



 GOOD DESIGN AWARD 2018



P24





工場見学 & 紙抄きイベント



工場見学やイベントの
出展が多くなってきました。
工場見学は、企業・団体様、
ご家族まで、**随時受付中**です。
詳しくは、弊社HPを
ご覧ください！



No.3活性炭塔
100m/h



総括

～代表者による全体評価と見直しの結果～

会社設立50周年を迎えたのは今から13年前、その際に経営理念を刷新しました。「紙づくりを通して循環型社会に貢献する」というものです。以来経営理念を具現化するために男里川の清掃活動を始め様々な環境活動に取り組んできました。ハード面では重油ボイラーからガスボイラーへの転換、徹底した省エネによる電力量の削減など、ソフト面ではeco検定／CSR検定試験などを活用した環境人財の育成です。その成果が認められ、環境省主催の「環境人づくり企業大賞（中小企業の部）優秀賞」を2年連続して受賞できましたことは大変喜ばしい大きな成果です。そこに3年目の受賞が「環境大臣賞」という事で身に引き締まる思いもありますが、「環境人財の育成」をたくさんの方々に、社員の皆様が前向きに活動し、自然と共生出来る活動として、繋げて頂きたいと思えます。

そして名誉ある賞を頂き、更に向上を目指すのはもちろんであり、その使命に責任も持ち対応していこうと決意しました。

環境に対して新電力再生エネルギー（FIT）と活性炭3過排水処理設備での環境に負荷を与えない紙の創造。又人財の育成にも尽力を尽くしたいと思えます。

昨年EA21認証取得してから10年が経ち、環境活動に日々徹してきました。営業面でのPELP!（ペルプ）の展開も楽しみです。現在、SDGsに全世界が注目しはじめ企業責任なども含めた環境型に軸を置く企業様も増えてきています。弊社活動に賛同して頂ける企業様を始め、新しいコトへ繋がるように精進して参りたいと思えます。

最後に「Re:Action」にも参加し、益々の環境の輪に全社一丸となり取り組んで参りたいと思えます。

62期の主要ポイント

- ① 環境人づくり大賞 中小企業の部 大賞受賞
- ② EA21 61期環境経営レポート 優良賞受賞
- ③ PELP!運用開始、HP、インスタ開始
- ④ 台風24号の脅威
- ⑤ 環境省様や多数の企業様とのコラボ実現
- ⑥ crep+阿智村 天体観測ギネスに挑戦!
- ⑦ 男里川清掃14年目
- ⑧ ドリカムに寄る地域貢献（4年目）
- ⑨ 産廃問題、人材育成など含むSDGs活動着手
- ⑩ 各地での紙すきイベント増加
(神戸・東京・大阪・本社)

山陽製紙株式会社
代表取締役

原田 六次郎





これからも美しい自然を守り、
後世に残すため、「循環型社会」
を目指し、「自然を守る活動」や
「地球環境負荷低減活動」に
全社員で積極的に取り組みます！





最後までご覧いただき、ありがとうございました！